

麻田貞雄 教授 略年譜および主要著作目録



## 略年譜

一九三六年一月二十九日 京都市に生まれる

### 学歴

- 一九五一年三月 同志社中学卒業
- 一九五四年三月 同志社高等学校卒業
- 一九五八年六月 アメリカ カールトン大学卒業 歴史専攻 (B.A. magna cum laude, Honors in History)
- 一九六三年六月 アメリカ イェール大学大学院博士課程卒業 アメリカ史および外交史専攻 (学位 Ph.D. 取得)

### 職歴

- 一九六二年十月 アメリカ イェール大学歴史学部・国際関係学部・日本研究科特別研究員
- 一九六三年五月 同志社大学アメリカ研究所初代研究員 (Executive Secretary)
- 一九六四年四月 同専任講師
- 一九六七年四月 同助教
- 一九六七年九月 ハーヴァード大学 Charles Warren Center for Study in American History 客員研究員
- 一九七二年四月 同志社大学法学部助教授

- 一九七二年十月 同教授
- 一九七二年四月 (兼任) 京都大学法学部嘱託講師 (日本政治外交史)
- 一九七三年四月 同志社法学部研究科修士課程教授
- 一九七六年四月 同志社大学研究科博士後期課程教授 (現在に至る)
- 一九七八年十月 London School of Economics and Political Science 客員研究員
- 一九八〇年四月 (兼任) 京都大学法学部嘱託講師 (外交史)

### 主要著作目録業績

#### 学位論文

“Japan and the United States, 1915-25.” Ph. D thesis としてイェール大学歴史学部提出。一九六三年。

#### 著書

- 『両大戦間の日米関係——海軍と政策決定過程』 一九九三年 東京大学出版会
- From Mahan to Pearl Harbor: The Imperial Japanese Navy and the United States* (forthcoming) 二〇〇六年 Naval Institute Press

#### 編著

*International Studies in Japan: A Bibliographic Guide* 一九八八年 日本国際政治学会

*Japan and the World: Bibliographic Guide To Japanese Scholarship in Foreign Relations.*

一九八九年 Columbia Univ. Press

翻訳書

Waldo H. Heinrichs 『日米外交とグルー』

一九六九年 原書房

アメリカ古典文庫八 『アルフレッド・T・マハン』

一九七七年 研究社

(編集・解説)

Alan M. Winkler 『アメリカ人の核意識』(監訳)

一九九九年 ミネルヴァ書房

Waldo H. Heinrichs 『グルー大使と日米外交』(増補版)

二〇〇〇年 グルー基金

共訳書

C. Yamm Woodward, ed. 『アメリカ史の新観点——比較史的なこころみ』(上下)

一九七六年 南雲堂

Ian Nish, ed. 『欧米から見た岩倉使節団』

二〇〇二年 ミネルヴァ書房

その他省略

分担執筆

「モンロー宣言からトルーマン・ドクトリンへ——」(佐伯彰一編 『アメリカとヨーロッパ——離脱と回帰』講座アメリカの文化五)

一九七〇年 南雲堂

(波多野澄雄と共同執筆) “The Japanese Decision to Move South” (in Robert Boyce and Esmond M. Robertson, eds., *Paths to War*.)

*New Essays on the Origins of the Second World War.* (MacMillan, London)

一九八九年

「孤立から介入へ」〔概説アメリカ外交史〕新版)

一九九八年 有斐閣

論 文

“Japan’s ‘Special Interests’ and the Washington Conference, 1921-1922.” *American Historical Review*. Vol. 67: 1 (October 1962)

(Reprinted in Ellis Krauss and Benjamin Nyblade, eds. *Japan and North America*. Vol. 1: *First Contacts to the Pacific War*. RoutledgeCurzon, London, 2004.)

「一九二〇年代におけるアメリカの日本像——『イメージ研究』の一試論」

一九六五年 『同志社アメリカ研究』No.2

「アメリカの対日観とワシントン体制」

一九六六年 『国際政治——日米関係のイメージ』No.34

「日本海軍と対米政策および戦略」(細谷千博ほか編『日米関係史——開戦に至る一〇年』第二巻所収)

一九七一年 東京大学出版会

「日米関係のイメージ(戦前)」(三輪公忠編『世界の中の日本』所収)

一九七三年 講談社

「日米関係と移民問題」(斎藤真編『デモクラシーと日米関係 日本とアメリカ——比較文化論』二所収)

一九七三年 南雲堂

“The Japanese Navy and the United States” (in Dorothy Borg and Shunpei Okamoto, eds. *Pearl Harbor as History: Japanese-American Relations, 1931-1941*

一九七三年 Columbia Univ. Press

「冷戦の起源と修正主義研究——アメリカの場合」 一九七四年五月 『国際問題』 No. 170

“Japanese Admirals the Politics of Naval Limitation: Katō Tomosaburō vs Katō Kanji”

(in Gerald Jordan, ed. *Naval Warfare in the Twentieth Century: Essays in Honour of Arthur Marder*, Groom Helm, London, 1977).

「ワシントン会議をめぐる日米の政策決定過程の比較」(細谷千博・綿貫讓治編『対外政策決定過程の日米比較』所収)

一九七七年 東京大学出版会

“Japanese Perceptions of the A-Bomb Decision,” in Joe C. Dixon, ed. *The American Military and the Far East: Proceedings of the Ninth Military History Symposium, United States Air Force Academy, 1-3 October 1980* (United States Air Force Academy and

Office of Air Force History Headquarters USAF, Government Printing Office, Washington, D.C., 1980).

「日本海軍と軍縮(一九二一—三〇年)——対米政策をめぐる政治過程」(細谷千博・斎藤真編『ワシントン体制と日米関係』

一九七八年 東京大学出版会

「『旧外交』と『新外交のはざま』(一九一八—二二年)——日米データントとワシントン体制に成立」(入江昭・有賀貞編『戦間期の日本外交』所収)

一九八四年 東京大学出版会

「原爆投下をめぐる日米意識のギャップ、一九四五—一九九二年」一九九二年八月 『外交フォーラム』No. 47

「きのこ雲と国民心理——原爆投下をめぐる日米意識のギャップ」(上智大学アメリカ・カナダ研究所編『アメリカと日本』所収)

一九九三年

“Revolt against the Washington Treaty: The Imperial Japanese Navy and Naval Limitation, 1921-1927,” *Naval War College Review* Vol. 46: 3 (Summer 1993).

“From Washington to London: The Imperial Japanese Navy and the Politics of Naval Limitation, 1921-30,” *Diplomacy & Statecraft* Vol.

4: 3 (November 1993)

(Reprinted in Eric Goldstein and John Mauer, eds. *The Washington Conference, 1921-22: Naval Rivalry, East Asian Stability and the Road to Pearl Harbor*, Frank Cass, UK)

“The Mushroom Cloud and National Psyche: Japanese and American Perceptions of the A-Bomb Decision, 1945-1995,” *Journal of American-East Asian Relations*, Vol. 4: 2, Summer 1995. (Reprinted in *Living with the Bomb: American and Japanese Cultural Conflicts in the Nuclear Age*, edited by Kaura Hein and Mark Selden (Armonk, N. Y., 1997).

「バクス・アメリカーナ」論——定義のための覚書」麻田真雄・細谷正宏編『日米外交史の研究』

一九九五年 (『同志社アメリカ研究』別冊一四) 同志社大学アメリ

カ研究所

「原爆投下の衝撃と降伏の決定」(細谷千博ほか編『太平洋戦争の終結』所収)

一九九七年 柏書房

“The Shock of the Atomic Bomb and Japan’s Decision to Surrender—A Reconsideration” *Pacific Historical Review*. Vol. 67:4 (November 1998) (Reprinted in Ellis Kraus and Benjamin Nyblade, eds. *Japan and North America*, Vol. 1: *First Contacts to the Pacific War*, Routledge-Curzon, 2004)

「フニンントン海軍軍縮の政治過程——ふたりの加藤をめぐる」 一九九八年三月 『同志社法學』第四九卷第三号 (二五五号)

“Between the Old Diplomacy and the New: The Washington System and the Origins of the Japanese-American Rapprochement,” *Diplomatic History*, 30: 2 (April 2006).



「書評ノート——両大戦間のアメリカ外交」

一九六七年 『同志社アメリカ研究』 第四号

“Recent Works on the American Occupation of Japan—The State of the Art.” *Japanese Journal of American Studies*, No. 1 (書評論文)

一九八一年

*Racing the Enemy: Stalin, Truman, and the Surrender of Japan* by Tsuyoshi Hasegawa. Reviewed in *The Journal of Strategic Studies* 29: 1 (February 2006)

その他省略

## 小 文

「ペリー」

一九八五年 『平凡社大百科事典』 平凡社

「カレッジ・ソング雑感——日米文化交流史の一断章」

一九八九年 『同志社時報』 No. 86

「原爆投下の衝撃と降伏の決定」

一九九五年二月 『世界』 (六一六号)

「原爆投下——その現実と道徳的ジレンマ」

二〇〇〇年八月 『諸君！』

「ワシントン会議」「ワシントン体制」「ジュネーヴ海軍軍縮会議」「加藤友三郎」「加藤寛治」「グルー」など

一九九二年 『日本外交史辞典』 山川出版社

「同志社カレッジ・ソング——日米比較の観点から」

二〇〇〇年 『同志社時報』 No. 109

「広島・長崎への原爆投下」秦郁彦ほか編

二〇〇二年 『世界戦争犯罪辞典』 文芸春秋

「長谷川毅「暗闘」——日米で受賞の価値ありや？」

二〇〇六年九月号 『諸君！』

その他省略

## 学会活動

略年譜

同志社法学 五八巻四号

(一六七三)

一九六九年九月 Society for Historians of American Foreign Relations (アメリカ) メンバーシップ委員

一九七〇年四月 日本国際政治学会 評議員

一九七一年四月 日本アメリカ学会 評議員

*Journal of American-East Asian Relations* (アメリカ) 編集委員

受賞

一九五八年六月 Phi Beta Kappa 入会

一九九四年六月 アメリカ海軍大学学長より Edward S. Miller 賞

一九九四年十月 吉野作造賞 (『両大戦間の日米関係』)

一九九九年八月 アメリカ歴史学会 (PCB) より Louis Knott Koontz 記念賞